

- 問1 都道府県別の統計において、成田国際空港を擁することで国際旅客定期便数が1,300便を超え、全国でも突出して多いという特色を持つ都道府県はどこですか。 (2024年 熊本県公立入試 類似)
1. 神奈川県 2. 千葉県 3. 東京都 4. 大阪府
- 問2 白川村のような日本の観光地において、世界遺産への登録という要因以外で、観光客を大幅に増加させる社会基盤の整備として、共通して見られるものはどれですか。白川村では2008年の高速道路全線開通や、2015年の北陸新幹線延伸がこれに該当します。 (2020年 茨城県公立入試 類似)
1. 伝統的な景観を維持するための大規模な工業団地の造成 2. 農村の生活を支えるための農業用ダムや用水路の建設 3. 高速道路や新幹線に代表される広域的な交通網の整備 4. 情報通信技術を普及させるための全域的な光ファイバー網の敷設
- 問3 モンゴル、ポリビア、日本の3か国における輸出額の品目別割合を比較したとき、各国の産業構造の特徴を説明した文として正しいものはどれですか。 (2017年 高知県公立入試 類似)
1. モンゴルは石炭や銅鉱、ポリビアは天然ガスといった鉱産資源が輸出の主軸であり、日本は自動車などの工業製品の割合が高い。 2. 3か国とも共通してサービス貿易の割合が最も高く、工業製品や鉱産資源の輸出額は極めて限定的である。 3. モンゴルは機械類、ポリビアは自動車といった工業製品が輸出の主軸であり、日本は天然ガスなどのエネルギー資源の割合が高い。 4. モンゴルとポリビアは小麦や大豆などの農産物が輸出の主軸であり、日本は石炭や銅鉱といった鉱産資源の割合が高い。
- 問4 1980年代後半以降の日本では、円高の影響などによって国内の企業が工場などの生産拠点を海外へ移転させる動きが加速しました。これにより、国内の製造業が衰退し、雇用機会が失われたり技術力が低下したりする問題が発生していますが、このような現象を何と呼びますか。 (2025年 茨城県公立入試 類似)
1. 経済のサービス化 2. 貿易の自由化 3. 産業の空洞化 4. 食料自給率の低下
- 問5 再生可能エネルギーのうち、トウモロコシやサトウキビといった植物、または家畜の排せつ物や木くずなどの生物資源を原料として得られるエネルギーを何といいますか。 (2020年 新潟県公立入試 類似)
1. 地熱エネルギー 2. クリーンエネルギー 3. シェールガス 4. バイオマス
- 問6 2005年の統計において、地方のA町では65歳以上の人口（老年人口）の割合が37.9%に達していました。これは当時の全国平均（20.2%）や東京都（18.1%）の約2倍にあたる数値です。このような人口構成を持つ地域で見られる現象の説明として、正しいものはどれですか。 (2023年 福岡県公立入試 類似)
1. 出生率が都市部よりも大幅に向上したため、子供の数が増えて全世代のバランスが取れている。 2. 都市部から現役世代の労働者が大量に移住してきたため、生産年齢人口が増えている。 3. 高度経済成長期のような工業化が急速に進展しており、全国平均よりも高齢化率が低下している。 4. 若年層が就職などで都市部へ流出した結果、相対的に高齢者の比率が上昇している。
- 問7 日本の農業が抱える課題と、それに対する「日本産米の輸出促進」という取り組みについて述べた文として、正しいものはどれですか。 (2024年 新潟県公立入試 類似)
1. 日本産米は海外の米に比べて価格が非常に安いので、低価格を武器に発展途上国への輸出を急拡大させている。 2. 国内での米の消費量が減少する中、海外での高い評価を背景に新たな販路を広げ、農業の継続を図ろうとしている。 3. 国内の食料自給率を向上させるために、日本産米の輸出を抑制し、すべて国内での消費に回す政策をとっている。 4. 国内での米の消費量が回復傾向にあるため、さらなる増産を目指して海外への輸出を一時的に停止している。
- 問8 関東地方から東海、瀬戸内海沿岸を経て九州地方北部にかけて、日本の工業生産が集中している帯状の地域のことを何と呼びますか。 (2019年 和歌山県公立入試 類似)
1. 中京工業地帯 2. 太平洋ベルト 3. 京浜工業地帯 4. 瀬戸内工業地域
- 問9 日本の鉄鋼業において、大規模な製鉄所が太平洋沿岸や瀬戸内海沿いなどの臨海部に集中して立地している理由として、最も適切なものはどれですか。 (2022年 大阪府公立入試 類似)
1. 国内の山間部で採掘された鉄鉱石を、川を利用して効率よく運び出すための集積地が沿岸部だったから 2. 製品である鉄鋼の主な消費先が海外市場であるため、輸出専用の飛行場を建設しやすい平坦な埋立地が必要だったから 3. 鉄鉱石や石炭などの原料の大部分を海外からの輸入に頼っており、大型船による荷揚げに便利な場所が有利だから 4. 製鉄には大量の電力が必要となるため、水力発電所が建設しやすい急峻な地形に近い沿岸部が選ばれたから
- 問10 千葉県に位置し、2015年の統計において輸出入額の合計が約21.5兆円に達し、東京港（約17.6兆円）や横浜港（約12.1兆円）といった主要な海港を抑えて、日本国内のすべての貿易港の中で輸出入額が最も大きい施設を次の中から選択してください。 (2017年 富山県公立入試 類似)
1. 名古屋港 2. 関西国際空港 3. 神戸港 4. 成田国際空港
- 問11 日本の工業製品であるIC（集積回路）の輸送方法について述べた文として、その理由と背景が最も適切に説明されているものを選択してください。 (2018年 佐賀県公立入試 類似)
1. 全国に広がる高速道路網を利用し、戸別配送が可能な自動車輸送が主力となっている。 2. 製品が軽くて高価であり、輸送時間を短縮する利点が大きいため、航空輸送が利用される。 3. かつては鉄道輸送が主流であったが、排気ガスによる公害を防ぐために航空輸送へ転換された。 4. 製品が重く大量の輸送が必要のため、一度に多くの荷物を運べる船舶輸送が利用される。
- 問12 2011年の東日本大震災をきっかけとした日本の発電構成の変化と、その背景にある課題について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2020年 愛媛県公立入試 類似)
1. 太陽光や風力などの再生可能エネルギーの普及が進んだ結果、2016年には火力発電と原子力発電の両方の割合が2010年より低下した。 2. 原子力発電の割合が大幅に低下した不足分を火力発電で補ったため、燃料の輸入費用が増大し、温室効果ガスの排出量増加も課題となった。 3. 二酸化炭素の排出を抑えるため、震災後は原子力発電に代わって水力発電が日本の全発電量の8割以上を占める主要な供給源となった。 4. エネルギーの節約意識が高まったため、総発電電力量が減り、原子力発電の減少分を増設した水力発電所のみで完全に賄うことができた。
- 問13 現代の日本の産業構造における就業人口比率の状況を説明した記述として、最も適切なものはどれですか。 (2024年 大分県公立入試 類似)
1. 第一次産業から第三次産業までの各部門の就業人口比率はほぼ等しい 2. サービス業や小売業、情報通信業などを含む第三次産業の就業人口比率が最も高い 3. 製造業や建設業を中心とした第二次産業の就業人口比率が最も高い 4. 農林水産業を中心とした第一次産業の就業人口比率が最も高い

答え合わせ・解説

問1	答え 2 千葉県	千葉県には日本の国際的な玄関口である成田国際空港が所在しています。このため、統計上では国際旅客定期便数が他の都道府県に比べて圧倒的に多くなるという明確な特徴があります。東京都の羽田空港も国際化が進んでいますが、依然として成田国際空港が国際線ネットワークの中心的な役割を担っています。
問2	答え 3 高速道路や新幹線に代表される広域的な交通網の整備	観光客数は、交通の利便性に大きく左右されます。特に山間部に位置する観光地の場合、高速道路（インターチェンジ）の整備や、近隣を通る新幹線の開通・延伸は、移動時間の短縮をもたらし、日帰り客や遠方からの旅行者を増やす決定的な要因となります。白川村の統計データでも、世界遺産登録時より、これら交通網の完成時の方が観光客の増加幅が大きくなっていることが確認できます。
問3	答え 1 モンゴルは石炭や銅鉱、ボリビアは天然ガスといった鉱産資源が輸出の主軸であり、日本は自動車などの工業製品の割合が高い。	統計データに基づくと、モンゴルでは石炭や銅鉱、ボリビアでは天然ガスが輸出の多くを占めており、これらはその国が持つ豊かな鉱産資源を背景とした産業構造であることを示しています。一方、日本は原材料を加工して製品を作る二次産業が発展しているため、輸出品目では自動車や機械類などの工業製品が圧倒的な割合を占めています。
問4	答え 3 産業の空洞化	円高が進むと、日本製品の輸出価格が上がり国際競争力が低下するため、企業はコストの低い海外での現地生産を増やしました。この結果、国内の工場が閉鎖されたり縮小したりして、製造業を中心に国内産業の衰退を招くことになりました。この現象は、あたかも国内産業の中身がなくなってしまう様子に例えて呼ばれます。
問5	答え 4 バイオマス	動植物などの生物資源（バイオ）の量（マス）を指す言葉です。これらを燃焼させた際に排出される二酸化炭素は、もともと植物が成長過程で光合成により吸収したものとみなされるため、大気中の二酸化炭素を増やさない「カーボンニュートラル」という考え方が適用されます。
問6	答え 4 若年層が就職などで都市部へ流出した結果、相対的に高齢者の比率が上昇している。	地方の町において老年人口の割合が東京都などの都市部や全国平均に比べて極端に高いのは、主に進学や就職を機に15歳から64歳の「生産年齢人口」が都市部へ流出しているためです。分母となる現役世代が減少することで、数値上、65歳以上の人口が占める比率が押し上げられ、地域の活性化を阻む要因となる高齢化が進行します。東京都の割合が低いのは、逆に地方から若者が流入していることが主な要因です。
問7	答え 2 国内での米の消費量が減少する中、海外での高い評価を背景に新たな販路を広げ、農業の継続を図ろうとしている。	1980年から2020年にかけての統計では、日本人の米の消費量は一貫して減少しています。この状況下で農業を維持するためには、国内だけでなく海外に目を向ける必要があります。日本産米は、海外の安価な米に価格で対抗するのではなく、その高い品質や安全性という付加価値を強みとして、富裕層や日本食レストランなどを中心に輸出量を増やしています。
問8	答え 2 太平洋ベルト	この地域には、京浜、中京、阪神といった大規模な工業地帯や、瀬戸内、北九州などの工業地域が含まれています。高度経済成長期を通じて交通網や港湾が整備され、日本の工業出荷額の大部分を占める中枢的な地域となりました。
問9	答え 3 鉄鉱石や石炭などの原料の大部分を海外からの輸入に頼っており、大型船による荷揚げに便利な場所が有利だから	日本は鉄鋼の主な原料となる鉄鉱石や石炭を国内でほとんど産出せず、その多くをオーストラリアやブラジルなどからの輸入に依存しています。重量のある原料を効率よく運び入れ、そのまま工場で加工するためには、大型船が直接接岸できる港を備えた臨海部が最も適しています。このような立地形式は、原料産地に工場を建てる「原料志向型」に対し、貿易の利便性を重視した日本の工業の特徴といえます。
問10	答え 4 成田国際空港	千葉県にある成田国際空港は、日本最大の国際空港であると同時に、金額ベースで日本一の貿易額を誇る貿易港でもあります。一般的に貿易額が大きい場所といえば、大型船が入港する海港を想像しがちですが、航空貨物は付加価値の高い品目を扱うため、合計金額では海港を上回る統計結果となっています。
問11	答え 2 製品が軽くて高価であり、輸送時間を短縮する利点が大きいため、航空輸送が利用される。	輸送機関の選択には、運ぶものの重さ、価格、輸送速度が大きく関わります。IC（集積回路）は小型・軽量でありながら付加価値が高いため、多少運賃が高くても、輸送時間を大幅に短縮できる航空輸送を利用するメリットが上回ります。このような「軽・薄・短・小」の製品は、空港周辺に立地する工場で生産されることが多いのも特徴です。
問12	答え 2 原子力発電の割合が大幅に低下した不足分を火力発電で補ったため、燃料の輸入費用が増大し、温室効果ガスの排出量増加も課題となった。	震災後に多くの原子力発電所が停止したことで、日本のエネルギー自給率は低下し、火力発電への依存度が87%を超えるまで高まりました。これにより、火力発電の燃料となる化石燃料の輸入額が増大して貿易収支に影響を与えたほか、二酸化炭素排出量の増加といった環境面での課題も浮き彫りになりました。水力発電は適地が限られているため、短期間で大幅に割合を増やすことは困難です。
問13	答え 2 サービス業や小売業、情報通信業などを含む第三次産業の就業人口比率が最も高い	日本では経済の発展とともに産業構造が変化し、現在は「経済のサービス化」が進んでいます。就業者数、産出額のいずれにおいても、商業、金融、情報、医療・福祉といったサービス業を中心とする第三次産業が占める割合が約7割を超え、国内で最も高い比率となっています。第一次産業は減少傾向にあり、第二次産業も機械化や海外への工場移転などにより比率を下げています。